

土台を据える

永遠のさばき

今日の学びは、「土台を据える」というシリーズの10回目、最後の学びです。これまでの学びで、ヘブル 6:1-2 で言われている6つの基本的教理の5つを取り扱ってきました。神に対する悔い改め、信仰、バプテスマの教え、手を置くこと、死人の復活です。この最後の学びでは、基本的教理の残りのひとつである、永遠のさばきを取り上げます。

永遠のさばきについて語る時、神が人々にさばきを下す際に、2つの主な方法があることを理解する必要があります。第一に、歴史における神のさばき、第二に、これから話す永遠のさばきで、私たちが永遠の中へと時間を超えて踏み出すときに私たちに直面するさばきです。この2つのさばきを見分けることは、重要です。でなければ、私たちは矛盾する声明のように思えて、混乱してしまうかもしれません。

第一の神のさばきは歴史において、それは、最初の世代が神に応答した方法に従って、後々の世代に祝福、あるいは罰をもたらします。出エジプト記 20:4-6 に、神の歴史的さばきの非常に明確な例を見ることができます。それは、十戒の一部です。神は言われます。

「あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神、わたしを憎む者には、父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。」

すべての罪の中で最も大きな罪は、偶像礼拝で、そのさばきは、続く三代、四代にまで及びます。それは、歴史におけるさばきで、偶像礼拝に関わったイスラエルや他の国々の歴史に実際どのようにそのさばきが行なわれたか、その例は数えきれないほどたくさんあります。

そして、エレミヤ32章でエレミヤは、歴史における神のさばきのこの問題を取り扱っています。そして、彼は主に祈っています。エレミヤ32:18です。

「あなたは、恵みを千代にまで施し、先祖の咎をその後の子らのふところに報いる方、偉大な力強い神、その名は万軍の主です。」

エレミヤは、神が続く後の世代に先祖の咎を報いると言っています。これはまた、時にかなった歴史におけるさばきです。

これはまた、義人への神の祝福にも当てはまります。詩篇103:17-18 でダビデは言っています。

「しかし、主の恵みは、とこしえから、とこしえまで、主を恐れる者の上にある。主の義はその子らの子に及び、主の契約を守る者、その戒めを心に留めて、行う者に及ぶ。」

これは、子らの子、後の世代に及ぶ神の祝福と義の約束です。ですから、私たち自身の行ないと神とのつながり方は、私たちに影響を与えるだけでなく、おそらく、のちの世代にも影響を及ぼすでしょう。それは、忘れてはならない非常に意義ある重要な教えです。私たちは何らかのかたちで後の世代の祝福、あるいは苦悩に対する責任があるのです。

これは、経験の明らかな事実であると思います。例えば、アルコール依存の両親に生まれる子どもは、決定的に不利な立場にあります。それは、彼の落ち度ではなく、後の世代に必然的に浸透する両親への神のさばきです。

さて、付け加えてお話ししなければならないのは、別の種類の神のさばきで、ヘブル書の著者が永遠のさばきと呼んでいる、私たちの運命に永久に影響を及ぼすさばきです。そして、そのさばきの原則は、完全に異なっています。それは神によってエゼキエル書18:1-4で表明されています。エゼキエルはこのように言っています。

「次のような主のことばが私にあった。「あなたがたは、イスラエルの地について、『父が酸いぶどうを食べたので、子どもの歯が浮く』という、このことわざをくり返し言っているが、いったいどうしたことか。」

このように、そのことわざは、子どもたちが父の罪のために苦しむと言っています。

「わたしは誓って言う。一神である主の御告げ—あなたがたはこのことわざを、イスラエルで、もう決して用いないようになる。見よ。すべてのいのちはわたしのもの。父のいのちも、子のいのちもわたしのもの。罪を犯した者は、その者が死ぬ。」

さて、今私たちは歴史的さばきについて話しているのではなく、すべての個人的たましいが時間から出て永遠へと踏み出すさばきについてです。そしてすべてのたましいは、その送った人生に対してのみ責任を負います。罪を犯したたましいには、死が来ます。

そしてそれは、20節で再び繰り返されています。ここで神はさらに強調しています。エゼキエル 18:20 です。

「罪を犯した者は、その者が死に、子は父の咎について負いめがなく、父も子の咎について負いめがない。正しい者の義はその者に帰し、悪者の悪はその者に帰する。」

ですから、私たちが時間から永遠へと踏み出す時、もはや私たちの両親や先祖の罪や祝福のために裁かれるのではなく、私たちが人生で行なってきたことについてのみ個人的に神に申し開きをするのです。正しい人の義はその人の上に臨み、よこしまな者の悪は彼に臨みます。それは伝道者の書に書かれています。「木が南風や北風で倒されると、その木は倒れた場所にそのままにある。」あなたが死んだときの状態が永遠を通してあなたの状態を決定するのです。これは、永遠のさばきでとても、とても、重要な教えです。

私が趣味で読む、あるSF小説が当初7巻出版されました。一冊ずつは薄いもので、後に3巻にまとめられ、その後

さらに1冊にまとめられました。7巻で持っていた時代の7巻目のタイトルは「永遠のさばき」でした。この本は、人々が手に取って最初の6巻を買うけれど、どういうわけか第7巻は買いたくないということを表わしていました。人々は、永遠のさばきというタイトルが好きではありません。しかし、みなさん、あなたが好きであろうとなかろうと、それは真理です。あなたはこの永遠のさばきの現実を直視しなければならないのです。

さて、ローマ書2章にある、神のさばきの5つの原則を取り上げましょう。ローマ書2章では、神のさばきの5つの原則が明らかにされています。ローマ 2:2 です。

「私たちは、そのようなことを行っている人々に下る神のさばきが正しいことを知っています。」

これが、最初の原則です。神のさばきは噂に基づいているのではなく、全くの事実に基づいています。主がゾドムとゴモラの状況についての真実を知りたいと思われた時のことを思い出します。神は、御使いや他の者たちから、恐ろしい報告を聞きますが、アブラハムにこう言われました。「わたしは下って行って、見よう。」それは実に私を感動させます。神は噂ではさばかず、真実に基づいてさばかれるのです。

二番目の神のさばきの原則は、6節にあります。

「神は、ひとりひとりに、その人の行いに従って報いをお与えになります。」

私たちは自分の行なったことに対してさばかれます。それは聖書全体を通して変わらない基本原則で、信者にも未信者にも当てはまります。I ペテロ 1:17 でペテロはこの原則を明らかにし、特に信者に適用しています。このように言っています。

「また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごさない。」

それは、今日ほとんどの教会で公けに語られないことです。しかし、ペテロは信者に向かって、あなたの行ないによってあなたはさばかれる、敬虔で信仰的な生きることを心に留めなさいと言っています。軽率でなく、高慢でなく、生意気にならないこと、なぜなら、あなたのすべての言動は、いつの日か神に申し開きをしなければならないからです。そして、忘れないでください。それは未信者にではなく、信者に対して書かれています。

それから、黙示録 20:12 は、最後のさばきでさばかれたすべての人々は、いのちの書に書かれていることに従ってさばかれたと言っています。ですから、神はあらゆるいのちの記録を持っておられます。

さて、新約聖書の時代には、書物は現在の本のようではなく、テープのような巻き物でした。それは、さらに鮮明な描写だと思えます。さばきにおいて、私たちの人生のすべての歩みを記録したビデオテープのようなものによって、私たちが向き合われるようなものではないかと思われています。4年ほど前、私が深刻な病にあった時、神が私を取り扱ってくださったことを思い出します。なぜ私はいやされぬのかと神を本当に求めていました。ある夜、午前2時ごろ神は私を起こし、それは、神が私に語る習慣を持っていた時間帯ですが、神は私がそれまで送ってきた人生

を少し振り返らせてくださいました。私は説教者であり、一般的には受け入れられ、時には批判も受けました。私は、比較的有名な他の説教者の多くとほぼ同じレベルでした。神は多くの点で私が極端に肉的であったことを示されました。感謝なこと、少しも著しい罪は犯さず、性的不道徳や酩酊、業務上横領のようなものにも関わったことはありません。それでも、神は過去において神に不快な思いをさせてきたことを私に示されたのです。神はこのマラキ書のみことばを示されました。

「わたしはヤコブを愛した。私はエサウを憎み……」

それが、神が言われたことです。エサウは肉的な人の型です。エサウには、はなはだしい罪の記録はありませんが、ただ、肉的な思いを持った人でした。神は、それを憎むと言われたのです。

私はおよそ50年奉仕に携わって来て、その私の歩みに神が憎むことがあると私に示したのです。私がいくつかの点で不注意であったことを示されたのです。示された場面のいくつかはレストランでのことです。あなたは気づいていないかもしれませんが、神はレストランでもあなたをさばかれるのです。ある人が言いました。「あなたがたアメリカ人は食べ物のことしか話せない。」別の人は言いました。「一番いいレストランを知りたかったら、説教者に聞くといい。」それはある程度当てはまりますが、まったくの真理というものではありません。私は自分の経験から語っているだけです。とにかく、ここでしばらく恐れに時間を割くということはどういうことかに私は気づき始めました。盲目的な恐れではなく、神の前に私たちの言動のすべてがさばかれるという畏怖です。それが、I ペテロからのことばです。

ローマ2章に戻りましょう。次の神のさばきの原則は 11 節にあります。

「神にはえこひいきなどはないからです。」

えこひいきはどのような人にもありえるからです。あなたは、弱い、取るに足りない人をえこひいきすることができます。私は弱い人々を本当に助けたいと願っており、その人たちのために何でもしたいと心から願っています。しかし、人をえこひいきするとは、人の生まれつきのままに心を動かされるという意味ではありません。将軍であれ、大統領であれ、司教であれ、神からの特別待遇のさばきを受けることはなく、他の人とまったく同じように取り扱われます。それこそが、えこひいきはないという意味で、特に今日の世界で重要な地位を占める人々に対するものです。

では、次の神のさばき、4つ目の原則は、光の基準に従ってです。パウロはローマ2:12で言っています。

「律法なしに罪を犯した者はすべて、律法なしに滅び、律法の下にあって罪を犯した者はすべて、律法によってさばかれます。」

もしあなたが律法の下にあるなら、それによってあなたはさばかれます。もし律法の下にないなら、律法によってさばかれることはなくても、あなたが行なってきたことによってさばかれます。

そして、この原則は、マタイ11章で、イエスの教えに応答しない、当時の主な町々について語っているイエスのこと

ばによって描かれています。マタイ 11:20-24 です。

「それから、イエスは、数々の力あるわざの行われた町々が悔い改めなかったので、責め始められた。『ああコラジン。ああベツサイダ。おまえたちのうちで行われた力あるわざが、もしもツロとシドンで行われたのだったら、彼らはどうの昔に荒布をまとい、灰をかぶって悔い改めていたことだろう。しかし、そのツロとシドンのほうが、おまえたちに言うが、さばきの日には、まだおまえたちよりは罰が軽いのだ。』」

なぜでしょうか。なぜなら、ツロとシドンは光が少なかったからです。ベツサイダとコラジンはより偉大な光があり、最も厳しくさばかれるのです。みなさんも私も私たちが利用できる光に従って裁かれます。

私は英語圏の人々に言いたいことですが、歴史上これまでの世代になかったほどの偉大な光が今日あると考えます。私たちはほとんど聖書を持っており、数えきれないクリスチャン書物、テープやその他のメディアがあり、多くの説教者もいますので、私たちが利用することができるその光によってさばかれるのです。それを忘れないでおきましょう。神の子の世代に対するさばきの基準は、私たちが最大の光を持っているので、最も厳しいものでしょう。

そして、イエスは続けます。

「カペナウム。どうしておまえが天に上げられることがありえよう。ハデスに落とされるのだ。おまえの中でなされた力あるわざが、もしもゾドムでなされたのだったら、ゾドムはきょうまで残っていたことだろう。しかし、そのゾドムの地のほうが、おまえたちに言うが、さばきの日には、まだおまえよりは罰が軽いのだ。」

このように、さばきは光によるのです。光が大きければ大きいほど、さらに厳しいさばきになります。そして先ほども言ったように、私を含め、みなさんひとり一人は、今までのクリスチャン世代にないほど、今日私たちが利用できる光を持っているでしょう。それが、私たちのさばきの基準となることを忘れないで下さい。

最後に、ローマ 2:16 にある、神のさばきの5つ目の原則です。

「私の福音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによって人々の隠れたことをさばかれる日に、行われるのです。」

神は、ただ私たちの見える行為をさばくだけではなく、隠れた最も奥深い思いや動機、態度もさばかれます。神は私たちの動機について非常に関心があるというのは正しいと思います。2人の人が、見た目には同じ行為をしていたとしても、それぞれの動機は全く違っているかもしれません。神が彼らをさばくとき、彼らの動機が考慮されるのです。

さばきの場面に移りましょう。私の理解では、さばきの場面には4つの主な連続した場面があります。第一は、キリストのさばきの御座の前です。ギリシャ語の bema という単語はローマの役人が判決を言い渡すために座る台座という意味です。ポンテオ・ピラトはイエスが裁判のために現れたときその台座に座っていました。これはクリスチャンにのみされるさばきです。再び I ペテロ 1:17 を見ましょう。私は、神がこの節を二度読んでほしいと願っておられると感じるのです。I ペテロ 1:17 です。

「また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごさない。」

それは、私たちに書かれています。私たちは父を呼び求めます。そして、I ペテロ 4:17 は言っています。

「なぜなら、さばきが神の家から始まる時が来ているからです。さばきが、まず私たちから始まるのだとしたら、神の福音に従わない人たちの終わりは、どうなることでしょう。」

さばきはどこから始まるのでしょうか。常に、神の家からです。つねに真理を持っている人々から始まります。そのようにさばきは始まり、さばかれる最初の人々は、クリスチャンです。クリスチャンには特別なさばきがあるのです。

ローマ 14:10-12 でこのように言っています。

「それなのに、なぜ、あなたは自分の兄弟をさばくのですか。また、自分の兄弟を侮るのですか。私たちはみな、神のさばきの座に立つようになるのです。次のように書かれているからです。『主は言われる。わたしは生きている。すべてのひざは、わたしの前にひざまずき、すべての舌は、神をほめたたえる。』こういうわけですから、私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し開きすることになります。」

覚えておいてください。あなたが弁明しなければならない人は唯一、あなた自身です。あなたは、他人や自分の牧師の説明をする必要はなく、ある人は自分をさばくべきであるときに、他の人をさばいて多くの時間を無駄にしています。あなた自身だけがあなたの弁明をするのです。それが、あなたがしなければならないことです。

パウロは私たちひとり一人が神に自分の申し開きをすと言っています。私たちクリスチャンひとり一人です。そして、II コリント 5:10 で同じテーマに戻っています。

「なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。」

私たちはみな、そこに現れなければならないと言っています。しかし、ギリシャ語では、私たちのすべてが現わさなければならないと言っています。秘密はありません。すべてのことが完全にあらわにされ、隠れているものは一つもありません。そして、私たちはみからだでの生き方に従って受けるキリストのさばきの座の前に出ます。そして、この学びのシリーズですでお話したことですが、もう一度言います。善か悪かの2つの区別しかありません。中間はないのです。良くないものはすべて、悪いものです。イエスははっきりと言いました。「わたしとともにいない者は私に敵対する者です。中立はありません。」イエスは中立を排除しました。

教会には多くの日和見的な態度の人たちがいます。日和見的とは、どういう意味がお分かりですか。深く関わろうとしないことです。どちら側にもつかないのです。良いことをしているのでもなく、悪いことをしていると認めようともしません。私は時々、聖霊が教会に来て最初にすることの一つは、その人たちにショックを与えるためだと言います。あなたはどちらか一方から始めなければなりません。多くの人が聖霊を歓迎しない理由は、聖霊が中立を撤廃するからで

す。聖霊に中立はありません。

さて、このさばきには、5つの主な特徴があることをお話ししなければなりません。簡単に説明しましょう。

それは個人的なもので、一人ひとりが主に答えるものです。

それは、私たちが地上にいる間の生き方で、みからだに成したことのためにです。

良いか悪いかのどちらかです。Iヨハネ 5:17 は言っています。

「不正はみな罪です・・・」

正しくないことはすべて罪です。このように、第三の区別は、人々の思いの中へもぐり込み、多くの人を惑わしています。しかし、中立はありません。

次の原則は、それは有罪の判決ではないということで、非常に重要なことです。私たちはさばかれますが、真の誠実なイエスの信者であるならば、私たちは罪ある者とされません。さばきの原則は、奉仕の評価に対してです。

この点についてあなたの慰めとなるように、3つのみことばを分かち合しましょう。ヨハネ 3:18 でイエスは言っています。

「御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。」

ですから、私たちがイエスの真の信者であるなら、私たちはさばかれますが、罪ある者とはされません。それから、ヨハネ 5:24 でイエスはこう言っておられます。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。」

これは、イエスがご自身を最も強調して表現する方法です。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」

最後に、ローマ8:1 です。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」

このように、私たちは罪を定めるさばきについて話しているのではなく、あなたの生涯でイエスにささげた奉仕を評価するさばきについてです。これを最も明確に表現している箇所は I コリント 3:11-15 です。パウロは教会を建て上げ

ることについて語って言っています。

「というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現れ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。」

それが、クリスチャンのさばきの本質です。第一に、私たちはイエス・キリストという土台の上に建て上げられなければなりません。他の土台はありません。それから、私たちが捧げる奉仕の価値がどういったものかを判断しなければなりません。そして、木、わら、切り株など、容易に得ることができる物は、大量に捧げられるでしょう。しかし、それらはみな、燃え尽きてしまいます。金、銀、宝石など、貴重な物は多く得ることができません。そのように、ある人は単に自分たちの奉仕の量で評価しますが、それは神の評価の方法ではありません。

私は継続して自分を探っています。何を生み出しているか。それは、燃え尽きてしまう単なる木や、わら、切り株ではないだろうか。あなたが生涯をかけて何かのために働いて、それを積み上げ、さばきの日に炎がそれを通り過ぎて焼き尽くしてしまうことは、なんと悲劇的でしょうか。後に何も残らず、あなたは炎の中をくぐり抜けるような裸のままです。なんと厳粛な考えでしょうか。

さて、私たちの奉仕が火の試練に耐えうるものかどうかを確かめるための提案をお話したいと思います。あなた自身の奉仕を評価できる3つの方法を提案しましょう。

第一に、あなたの動機が何であるかです。神に受け入れられる唯一の動機は、神の栄光のためです。この地の教会で行なわれている多くのことは、自分たちの栄光のために人間によってなされます。私の個人的な意見、そしてこれは単に個人的な観察によるものですが、今日の教会の最大の問題は、奉仕の中にある個人的な野心です。大きな教会、たくさんのメーリングリスト、多くの奇跡などです。それらはすべて動機が間違っているために焼きえ尽くされてしまいます。I コリント 10:31 でパウロは言っています。

「こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。」

神が、私たちの奉仕の動機で、唯一受け取ってくださるもの、それは、神の栄光という動機です。

なぜか、私は主がここで少し止まって、みなさんにそれぞれの主への奉仕の動機は何であるのかを、思い巡らす機会を与えるようにしてほしいと願っておられると感じます。パウロは、ローマ 12:1 で、私たちは思いを一新する必要があると言いました。一新されない思いとは、「これは、どう私のためになるか。」と考えることです。一新された思いとは、「神はどこで栄光を受けるか。」です。それらは、動機がまったく違っています。

これは結婚生活にとってもあてはまると思います。人が一新されていない思いで結婚するので、多くの結婚は不幸なのではないでしょうか。その態度とはこうです。「私はこれから何が得られるか。結婚は私を幸せにしてくれるだろうか。」それはほぼ確実に不幸な結婚の元となります。正しい動機は、私は何を得られるかではなく、私は何を与えることができるか、です。そして、2人が互いに相手に与える目的で出会うとき、彼らは幸せな成功する結婚生活を送るでしょう。それは、まさに重要な動機の核心部分です。

第二に、あなたの働きが火の試練に耐えるためには、神のことばに従ってなされるものでなければなりません。それが唯一受け入れられる基準です。マタイ7章でイエスは砂の上に建てた人と、岩の上に建てた2種類の人について話しています。マタイ7:21から読みましょう。

「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。」

受け入れられる唯一の動機は父なる神のみこころを行なうことです。そして、イエスは一部の人々に不快感を与えることを言います。

「その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行ったではありませんか。』しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』」

神の恵みによって、私は非常に多くの悪霊を追い出す特権にあずかってきました。非常に確かな奇蹟が起こるのも多く見てきました。預言もしばしばしてきました。私の天での望みは、それらのものには基づかないということをお伝えしたいと思います。そのように考える人は危険です。天での重要な必要条件は唯一、天の父なる神のみこころを行なうことだけです。イエスはこれらの奇蹟を行なう者たちに言います。「不法をなす者ども。わたしから離れて行け。」彼らの多くは、自分たちが律法なのです。彼らは、基本的に自分が好きなことは何でも行ない、得ることができる物を何でも取り入れ、神のことばの最も中心的原則を無視します。

このことだけは言わなければなりません。最近私はバラムについての文書を書きました。バラムの話にとっても感銘を受けたからです。この人は、素晴らしい預言の賜物と知識と知恵のことばを持っていました。彼はイスラエルの運命に関して、聖書で表現されている他のどれよりも美しく民数記で預言しています。にもかかわらず、彼はイスラエルの民によって死にました。彼の問題は何だったのでしょうか。彼は新約聖書で3度も言及されており、その動機はお金を愛したことだとはっきりとされています。その代価は彼のたましいでした。そして、まさに、今日の教会で私たちは、お金を愛することによって動機づけられているかどうかと自分自身に問うてみなければなりません。

妻と私はこのみことばを示されました。

「私たちは、多くの人のように、神のことばに混ぜ物をして売するようなことはせず……」(Ⅱコリ 2:17)

それは、驚くべき声明です。それは、パウロの時代でした。パウロは、福音から利得を得ている人が多くいると言っています。神が探られるのは、私たちの動機です。

そして、第3の必要条件は、私たちに働く力です。ローマ 15:18-19 でパウロは言っています。

「私は、キリストが異邦人を従順にならせるため、この私を用いて成し遂げてくださったこと以外に、何かを話そうなどとはしません。キリストは、ことばと行いにより、また、しるしと不思議をなす力により、さらにまた、御霊の力によって、それを成し遂げてくださいました。」

パウロは、聖霊が自分を通して成してくださったこと以外に語るものは何もないと言っています。それは、唯一受け入れられる唯一の働きの力、聖霊の働きです。

では、これら火の試練に耐えうるあなたの奉仕の3つの必要条件を復習しましょう。一つ目、動機が神の栄光か。二つ目、その働きを神のことばに従って行なっているか、それとも自分の思うことをしているか、もしくは、自分の規則を作っているか。そして三つ目に、あなたは聖霊の力で働いているか、それとも自分も肉体的な能力で働いているか、です。

さて、さばきには2つのパターンがあり、イエスが話された2つのたとえです。私はこれの取り扱い方を決めるのに困難な時がありました。しかし、私はそれを読んで少し時間を取る必要があると思います。まず、ミナのたとえ話です。ミナとは、簡単には、測定という意味です。お金の測定です。一ミナはかなり小さな額のお金です。このたとえは。ルカ 19:11 から始まります。

「人々がこれらのことに耳を傾けているとき、イエスは、続けて一つのたとえを話された。それは、イエスがエルサレムに近づいておられ、そのため人々は神の国がすぐにでも現れるように思っていたからである。それで、イエスはこう言われた。「ある身分の高い人が、遠い国に行った。王位を受けて帰るためであった。」

言い換えれば、その人が戻るまでには長い時間がかかるということです。

「彼は自分の十人のしもべを呼んで、十ミナを与え、彼らに言った。『私が帰るまで、これで商売しなさい。』」

それは、利益を得なさいということです。

「しかし、その国民たちは、彼を憎んでいたので、あとから使いをやり、『この人に、私たちの王にはなってもらいたくありません』と言った。さて、彼が王位を受けて帰って来たとき、金を与えておいたしもべたちがどんな商売をしたかを知ろうと思い、彼らを呼び出すように言いつけた。」

そして、神は私たちひとり一人から、働きの評価を求めます。

「さて、最初の者が現れて言った。『ご主人さま。あなたの一ミナで、十ミナをもうけました。』主人は彼に言った。

『よくやった。良いしもべだ。あなたはほんの小さな事にも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』』

この人生における私たちの働きの忠実さが、永遠につく地位、神の国で持つことができる責任を決定づけます。

「二番目の者が来て言った。『ご主人さま。あなたの一ミナで、五ミナをもうけました。』主人はこの者にも言った。『あなたも五つの町を治めなさい。』』

しかし、主人はよくやった、良いしもべだ、とは言いませんでした。賞賛のレベルは低くなっています。

「もうひとりが来て言った。『ご主人さま。さあ、ここにあなたの一ミナがございます。私はふるしきに包んでしまっておきました。あなたは計算の細かい、きびしい方ですから、恐ろしゅうございました。あなたはお預けにならなかったものをも取り立て、お蒔きにならなかったものをも刈り取る方ですから。』主人はそのしもべに言った。『悪いしもべだ。私はあなたのことばによって、あなたをさばこう。あなたは、私が預けなかったものを取り立て、蒔かなかったものを刈り取るきびしい人間だと知っていた、というのか。だったら、なぜ私の金を銀行に預けておかなかったのか。そうすれば私は帰って来たときに、それを利息といっしょに受け取れたはずだ。』そして、そばに立っていた者たちに言った。『その一ミナを彼から取り上げて、十ミナ持っている人にやりなさい。』すると彼らは、『ご主人さま。その人は十ミナも持っています』と言った。」

彼らは、すでに十ミナ持っている人がさらに一ミナ得ることを正しいとは思いませんでした。イエスは続けて言います。

「彼は言った。『あなたがたに言うが、だれでも持っている者は、さらに与えられ、持たない者からは、持っている物までも取り上げられるのです。』』

私たちのほとんどがこのような考え方をもっていないので、ぜひお聞きください。これがこのたとえの終わりではありません。

「ただ、私が王になるのを望まなかったこの敵どもは、みなここに連れて来て、私の目の前で殺してしまえ。』』

それは、イエスのさばきです。救い主イエスではなく、さばきのイエスです。救い主なるお方は、同時にさばき主でもあることを忘れないでください。イエスは、救いにおいて完全であると同時に、さばきにおいても完全なのです。

あなたのイメージするイエスには、それが含まれていますか。それとも、あなたは、「やさしく、柔和で温厚なイエスさま」という人の一人でしょうか。ハレルヤ、それは、真実ですが、真理の全体ではなく、イエスにはもう一つの面があります。イエスは燃える炎のような目、口から出た両刃の剣、大水のとどろきのような声、炉で精錬されたしんちゅうのような足を持ったさばき主です。そして自分の受容能力の中でイエスを目にしたヨハネは、その足元に倒れて死者のようになってしまいました。これは、私にとって印象的です。イエスとともにいた弟子たちのうちで一番親密な関係であ

ったヨハネです。ヨハネは、最後の晩餐でイエスの御胸のそばにおり、イエスがガリラヤ湖でご自身を啓示し、彼らに朝食を備えたときにいた一人でした。

イエスが、ご自分の弟子たちに朝食を備えられたというその事実が私は大好きです。

しかし、とにかく、ここでイエスをよく知っていた、そのヨハネが、イエスによるさばきを目の前にして、死者のようにイエスの足もとに倒れました。私は、このようなことが教会にも起こる必要があると思います。イエスとの仲良し(なあなあの)関係にある教会は、イエスによるさばきに向き合う必要があると考えます。死者のようにイエスの足もとに倒れたとしても、私たちには何の危害もないと信じます。それは、私たちが学ばなければならないものです。

では、このたとえ話についてお話ししましょう。第一に、最大限に用いる人はさらに与えられる。これは原則です。ある時、神は非常に奇妙な方法で超自然的な信仰の賜物を私に与えてくださいました。私は足の長さが違う人々のために祈って、短い方の足が伸びます。それは、文字通り何百人にも起こり、私はその人たちに、「さあ、神があなたに触れてくださいました。神の超自然的な力があなたに働いています。」私は多くの人々の超自然的な癒しを見ました。

しかし、私の友人の牧師たちは、こう言いました。「デレク、あなたは立派な聖書の教師としての評判を得ています。あなたが、人々の足を伸ばすことばかりやっていることは、その評判にはふさわしくないかもしれない。」それで、私も、彼らの言うことは正しいかもしれないと考えました。私が主のもとへ行くと、主はこのように言われたと感じました。「私はあなたに賜物を授けた。」すると、突然私は、それは信仰の賜物であると気づいたのです。「あなたには2つのことができる。それを用いてさらに得ることができる、もしくは、それを用いることに失敗してその賜物を失うこともできる。」私は、その時、私はそれを用い、さらに得ようと決心しました。そして、さらに得たので、神の栄光をほめたたえます。しかし、どのような賜物であっても、あなたには2つの選択肢があります。それを用いてさらに得るか、それを用いずに失ってしまうかであることを覚えておいてください。

また、すでに言いましたが、この人生でのあなたの奉仕があなたの永遠の位置を決定することも忘れないでください。十ミナを手にした人は、十以上の町を、五ミナを手にした人は、五つ以上の町を治めました。これは、この人生における忠実さに対する適切な分け前です。そして、イエスは、「よくやった、素晴らしい成功をおさめたしもべだ。」と言ったのではなく、「よくやった。忠実なしもべだ。」と言いました。ある人は、成功に強調を置きすぎ、忠実さをあまりにも強調しなすぎます。

私たちは今日、宣教地と呼ばれる多くの外国の地で、神の素晴らしい働きを見る特権が与えられています。私たちは、少し高慢になって、「すごいと思いませんか。何千人もの人々が私のセミナーにやって来るんです。」しかし、神は私にこのように示されました。「忘れないでいなさい。あなたの前の世代は少ししか実を見なかったが、彼らは労苦し、あなたがたは、その働きの中に入ったのだ。だから、あなたがた自身自身の評価を高く見積もり過ぎてはいけない。」私は開拓者たちを尊敬し、また、労苦し、いのちをささげてきた人々を尊敬します。最初の宣教師が東アフリカに行ったとき、5人に4人は何か月もたたないうちに亡くなりました。彼らは何の結果も見ませんでした、のちの実を結んだ地に植えられた種でした。

私は心からお伝えします。みなさんや私が直面する最大の危険は、高慢です。この話をするべきではないかもしれませんが、教会の中で自分は謙遜であると宣言する人は、高慢なのです。

さて、もう一つ、何もしなかった人に対してイエスは言いました。「さて、あなたはお金儲けをする能力はなかったようだが、それを銀行に預けてくことはできたはずだ。そうすれば、私は利息と一緒に受け取れたはずだ。」そのことは、利益を得ることは常に間違いではないということを私に証明してくれました。ある時には、間違っているかもしれませんが、すべてではないのでしょうか。

さて、それはあなたや私にとってどのようなもののでしょうか。私たちには何ができるのでしょうか。このように言うこともできるでしょう。「私は大きな働きはしていないし、説教者でもなく、経営管理者でもない、私には多くの賜物はない。私に何ができるでしょうか。」それを銀行に預けなさい。何をでしょう。これは私の理解ですが、のちに実際に実を結ぶ奉仕を探し、それをためし、それに投資するのです。それが、銀行にお金を預けておく、ということです。主が来られた時、あなたは利息を得るでしょう。アーメン。

では、次のたとえを見てみましょう。よく似ていますが、タラントのたとえです。マタイ 25:14-30 にあります。14 節から読んでいきます。

「天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには五タラント、ひとりには二タラント、もうひとりには一タラントを渡し、それから旅に出かけた。」

ここで気づくことは、ミナのたとえでは、おのおの一ミナずつを受け取りましたが、ここでは、一人は五タラント、一人は二タラント、もう一人は一タラントを受け取りました。それぞれの能力に応じて分配されたのです。神は、あなたがそれを用いてできるものに応じてタラントを与えると理解していただきたいと思います。あなたが五タラントを用いることができるなら、神は五タラントを与えるでしょう。もし、あなたが二タラントだけしか使えないなら、神は二タラントを与え、一タラントだけしか用いることができないなら、一タラントを与えるでしょう。しかし、それはあなたの能力に応じて、神は与えるものを見積もるのです。

それから、こう書かれています。

「五タラント預かった者は、すぐに行って、それで商売をして、さらに五タラントもうけた。同様に、二タラント預かった者も、さらに二タラントもうけた。ところが、一タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その主人の金を隠した。さて、よほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。」

みなさん、主は戻って来られ、私たちと清算をされます。

「すると、五タラント預かった者が来て、もう五タラント差し出して言った。『ご主人さま。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。私はさらに五タラントもうけました。』その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』」

同じ原則に気づきましたか。この世であなたが行なったことが、永遠にあなたが行なうことを決定するのです。

「二タラントの者も来て言った。『ご主人さま。私は二タラント預かりましたが、ご覧ください。さらに二タラントもうけました。』その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』」

ここで、異なる原則があります。それは、五タラントもうけた人と、二タラントもうけた人がいましたが、主人のことは全く同じものでした。言い換えれば、神が求めている割合です。あなたが5を受け取ったら、神は100%を期待します。それが良しとされます。2を受け取ったら、神は100%、つまり2を期待します。神は、あなたの受容能力を知っておられ、あなたが生み出すことができる以上のものを求めることはなさいません。

続けましょう。

「ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。』」

なまけ者は不法な者であることを指摘したいと思います。私たちの教会のほとんどは、お酒を飲むことを受け入れず、教会の中でメンバーと認めません。私たちの教会の多くは怠惰な人を受け入れます。しかし、神の目からは、怠惰なことは、お酒を飲むことよりも悪い罪だと私は思います。それは、イエスが物事を評価する方法を私が見て理解しているものです。私は飲酒を是認しているではありません。それは罪です。しかし、神の目には、怠けていることはより悪い罪だと私は思うのです。イエスは言われました。

「『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息がついて返してもらえたのだ。』」

再び、同じ原則です。あなたがお金を儲ける能力がないとしたら、実を結ぶ奉仕に投資してください。

『だから、そのタラントを彼から取り上げて、それを十タラント持っている者にやりなさい。』

持っている人がそれを受け取るのです。

「だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまでも取り上げられるのです。役に立たぬしもべは、外の暗やみに追い出しなさい。そこで泣いて歯ざしりするのです。」

「そこで泣いて歯ざしりするのです。」というこのフレーズは、新約聖書で何度も使われています。私は、それが使わ

れている場面を研究し、まさに真理のすぐ近くにいた人々についてのみ使われているという結論に至りました。彼らには、中に入るあらゆる機会がありました。まったく一度も神について何も聞いたことがない人々ではなく、生涯の間神について聞いており、知っていたにも関わらず、決して入らなかった人たちにです。そこで泣いて歯ざしりするのです。「私はそこへ入ることはできたし、常にその機会があったが、決してそうしようとは思わなかった。今、私は永遠に外の暗闇に放り出されている。」という、あまりにも苦々しいことばが出てくるでしょう。恐ろしいことです。

もう一つ言わせてください。拒絶された人々は一タラントの人で、最小限しか献身しなかった人々でした。それは、教会の中で当てはまると思います。基本的に、かなりの能力を備えた人はそれを用いて何かをするでしょう。他方能力のある人も何かをするでしょう。しかし、一タラントの人々は、のんびり座って、こう言うのです。「まあ、私はそれほど持ってないから、できることもほとんどない、だから何もしないのさ。」その人々は拒絶され、放り出されます。

みなさんの中のある人々にお話したいと思います。一タラントの人々にです。あなたは自分の責任を過小評価して言います。「私はあまり持っていないから、できることはあまりない。神は私に多くを要求しておられない。」いいえ、神は要求しておられます。神はあなたの持っているものが少なくても、多くても、忠実さを要求されます。

私は、自分の教会でこの一タラントの人々について語り、自分が一タラントだと感じており、そのタラントを用いてこなかった人々に応答を求めました。その応答はショッキングなものでした。教会のおよそ半分がそう感じていたのです。これは、多くの信者にとって主な問題だとわかりました。「私は一タラントしかないから、何ができるか。何もしないでおこう。」イエスはそれを受け入れてくださいません。イエスは言われました。「それを銀行に預けることはできたはずだ。あなたの一タラントを本当に実を結ぶ働きに投資することができる。」すると、その実の多くはあなたの成果となる。

私たち夫婦の大きな問題の一つは、私たちのために仕えてくださる人が必要だということです。大げさなものではなく、偉そうにしたいのでもなく、私たちが仕事をするために、神が選んでくださる人を奉仕者として必要としています。ただ仕える者として。今日の教会で最も難しいことは、仕えたいと願う人々を見つけることです。私たちはここで2、3人そのような素晴らしい人に出会いました。事実、私たちに仕えてくださる3人の人たちと小さな集会を持っていました。彼らはみな、忠実でした。しかし、自分たちの奉仕をしたい人々とは多くの問題が生じます。その人たちは別の奉仕に投資することを喜ばません。そして彼らはすべてを逃します。自分たちの働きはうまくいかず、別の働きで生み出される投資の利益も手にすることができないのです。

一タラントのみなさん、気を付けてください。あなたは危険です。「役に立たないしもべを暗闇に放り出せ。」という言葉は聞くでしょう。そこで泣いて歯ざしりするのです。

これらのたとえから、いくつかの原則を挙げましょう。

第一、この人生での私たちの働きが次の人生での位置を決定します。

第二、あなたのタラントを用いなければ、それを失います。

第三、なすべき正しいことを知りながら、行なわないことは、罪です。ヤコブ 4:17。

私たちは、任務の罪についてよく話しますが、怠惰の罪はまさに現実です。

それから、マタイ 25 章を分析してみましょう。そこには、神に完全に拒絶された 3 種類の人がいます。油を用意していなかった愚かな娘たち、一タラント預けられて何もしなかったしもべ、そしてイエスの兄弟たちを助けなかったヤギの国々です。そして彼らは完全に、決定的に神に拒絶されました、ある日私は自分にこう言いました。「彼らが拒絶された共通の原因は何だろうか。」私はシンプルな答えを得ました。「何もしなかったことだ。」何もしないこと、それが、拒絶される原因のすべてです。それは厳粛な教えです。

他のさばきについて急いでお話ししましょう。私たちは、主に信者のさばきを取り扱ってきました。まさに、それが実際私たちに関することだからです。私たちが信者であるなら、本当に知る必要のあることです。

次のさばきはイスラエルのさばきで、神に特別に選び分けられた民です。彼らは何世紀も不従順、不信仰であったにもかかわらず、神は決して決定的な拒絶をしてくれませんでした。聖書は何と言っているのでしょうか。

「主はご自身の御名のためにご自身の民を退けない。なぜなら、それは、イスラエルをご自身の民とするために主を喜ばせることだからです。」

神がイスラエルのために成されたことは、イスラエルの荒野のゆえではなく、主の御名が栄光を受けるためです。神は、イスラエルを特別な方法で取り扱われます。これは、みなさんにお伝えしたい、祝福とさばきの原則です。神はユダヤ人を直接祝福しますが、異邦人はユダヤ人を通して祝福されます。私たち異邦心はそのことを覚えておく必要があります。私たちが受けてきたあらゆる特別な祝福は、私たちがユダヤ人に対して負債があるからです。イエスはヨハネ 4:22 で言っています。

「救いはユダヤ人から出る……」

それは非常にシンプルな宣言です。あなたが救いによって受けてきたすべての祝福は、一つの民、ユダヤ人にあなたが負っている負債です。神はあなたがそれを認識し、それに応じた行動をとることを期待します。

しかし、さばきが来ると、神は異邦人を直接さばき、異邦人を通してユダヤ人をさばきます。もう一度言います。神はユダヤ人を直接祝福し、ユダヤ人を通して異邦人を祝福します。神は、異邦人を直接さばき、ユダヤ人は異邦人を通してさばかれます。ユダヤ人の歴史を何百年もさかのぼると、神はユダヤ人の不従順と不信仰のゆえに、異邦人の国々を用いて、絶えずユダヤ人をさばいてきました。

そして、次のさばきは、大患難におけるイスラエルのさばきです。エレミヤ 30:3-7 を見てみましょう。

「見よ。その日が来る。——主の御告げ——その日、わたしは、わたしの民イスラエルとユダの繁栄を元どおりにすると、主は言う。わたしは彼らをその先祖たちに与えた地に帰らせる。彼らはそれを所有する。」

いかなる政府や政治家がどのようなことを考えたとしても、イスラエルはその地を所有すると言っています。そして、聖書を知っている人はみな、その地が何であるのかを知っています。それはただ一つだけです。

私の友人の説教者はかつて言いました。「ユダヤ人の帰還が神からのものであるなら、そこには平和があるだろう。」彼は聖書が何と言っているのかを知らませんでした。なぜなら、神はユダヤ人の帰還についてこのように言っているからです。

「主がイスラエルとユダについて語られたことは次のとおりである。まことに主はこう仰せられる。『おののきの声を、われわれは聞いた。恐怖があつて平安はない。男が子を産めるか、さあ、尋ねてみよ。わたしが見るのに、なぜ、男がみな、産婦のように腰に手を当ているのか。なぜ、みな顔が青く変わっているのか。』」

イスラエルは、その地に戻るや否や、かつて経験したことがないほどの大きな抑圧が目の前にあるのです。

「ああ。その日は大いなる日、比べるものもない日だ。それはヤコブにも苦難の時だ。しかし彼はそれから救われる。」

それから救われるのです。そして、神はユダヤ人をさばきによって取り扱います。患難の最後に彼らのさばきが行なわれます。その後神は、他の国々をさばかれます。時間がなくなってきたので、急ぎましょう。ヨエル 3:1-2 です。

「見よ。わたしがユダとエルサレムの繁栄を元どおりにする、その日、その時・・・」

これは、ユダヤ人の自分たちの地への帰還と同じ時代のことを言っています。神は言われます。

「わたしはすべての国民を集め、彼らをヨシャパテの谷に連れ下り、その所で、彼らがわたしの民、わたしのゆずりの地イスラエルにしたことで彼らをさばく。彼らはわたしの民を諸国の民の間に散らし、わたしの地を自分たちの間で分け取ったからだ。」

そう、神はユダヤ人を取り扱われた後、異邦人を取り扱われます。神は一つの基準、彼らがイスラエルを取り扱った方法によって、異邦人を取り扱います。それは注目に値する事実です。神は2つの告訴の理由を持っておられます。一つは、ユダヤ人に対する抑圧。二つ目は、彼らとその土地を分割したことです。神は言われます。「それは私の土地だ。わたしがイスラエルに与えた地だ。」と。そして、いかなる人間の権威や政府も、その地を分割する権利はありません。今日何が起こっていますか。まさに、神が起こらないようにと言ったことです。その地は分割され、今も分割が続き、これからも分割されるでしょう。しかし、神はさばきのために来られたとき、その地を分割した国々をさばかれるでしょう。

残念ながら、その告訴リストの一番上には、イギリスが来るでしょう。なぜなら、イギリスは、第一次大戦後に統治命令の責任があり、ユダヤ人のために祖国を提供する権限が与えられ、1922年イギリスで、ウィンストン・チャーチル一人の決定により、その土地の76%を、現在ヨルダンと呼ばれるアラブの国に割り当てたのです。そして、ユダヤ人はそこに住むことを許されていません。残りの24%は、国連が分割しました。しかし、すべては、イエスが来られるとき、イエスに答えなければならないことです。

そして、マタイ 25 章の国々のさばきを見ると、羊の国は御国に招かれ、山羊の国は御国から放り出され、永遠の刑罰に入ります。分離の基本原則は、イエスの兄弟に対する扱い方です。これはとても重要なことなので、これを言うのですが、イスラエルは、今日の世界事情の主な要因であり、多くの国々が間違った側に立っているからです。イスラエルは自分たちを守ることはできませんが、遅かれ早かれ、時が来て神が介入されます。

それが、第三のさばきです、第 4 のさばきは、簡単に触れるだけにしておきますが、黙示録 20 章にある大きな白い御座の前のさばきです。

「また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。」

別の一つの書物、いのちの書があることを感謝します。いのちの書に名前が書き記されている人はみな、神とともに永遠の中へ入ります。残りの者はみな、永遠に神の臨在から追放されます。

このように、4 つの主なさばきがあります。

第一、キリストのさばき、信者だけのさばきです。

第二、大患難におけるイスラエルのさばき

第三、千年王国の始まりにある、キリストの御座の前でのすべての国々のさばき

第四、大きな白い御座の前で残っているすべての死者のさばきです。

それらは、私が理解してきた神のさばきの原則です。私たちは今、ひとり一人、自分に聞いてみる必要があります。「私は、神のさばきに直面する準備ができているだろうか。私は神の前に立った時に恥ずかしくないような生き方をしているだろうか。」みなさん、一緒に、神のさばきの前に立つという、この重要なことについて祈りましょう。

「全能なる神さま、あなたのみことばはとても明らかです。今、あなたのみことばが語られました。今日のことばが、聖書から直接語られ、私たちの心に深く入り、真剣に自分自身の生き方を振り返ることができるよう祈ります。今、一タラントの人のために、特に祈ります。主よ、どうか彼らとそのタラントを地面に埋めて隠さないようにしてください。彼らがそれを銀行に預けて、あなたが来られるときに恥を見ないように助けてください。主、イエスさま、あなたは間もなく来られると何度も私たちに語ってくださっています。今、これを聞いている人が、私も含めて、あなたの再臨に備えることができるよう、イエスさまのさばきの御座の前に立つ備えができるよう、私たちがみからだの中で行なってきたことを答えることができるよう、恵みを与えてください。あわれみ深い主イエスの御名によって、祈ります。アーメン。